



歩射抄原の作法

一抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動
も當面歩方略之とく長上下袴ら履靴
也何れに射の道に法より

一抄原射を一人の二人宛に連筆中或る
るを一人に連しても歩射の法に法より

一ぬ人抄原の射を一人の二人宛に連筆中或る
まのばと抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動

一二張の張も右の法にて射は法より
すは法より法に法より法より法より

一ぬ人抄原の射を一人の二人宛に連筆中或る
まのばと抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動

一抄原の射を一人の二人宛に連筆中或る
まのばと抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動

一ぬ人抄原の射を一人の二人宛に連筆中或る
まのばと抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動

一ぬ人抄原の射を一人の二人宛に連筆中或る
まのばと抄原のまゝま上下と高帽子系袍袴にて動



一 板原の烈之介の及ぬ夫の及ぬ
と云くわくは玉の場を金といふ由に
て先夫の及ぬ夫の及ぬと云く
て對面と云く夫の及ぬ夫の及ぬ
と云く

一 淺代が河の及ぬ夫の及ぬ
の及ぬ夫の及ぬ

一 ちれも對面も及ぬ夫の及ぬ
と云くは河の及ぬ夫の及ぬ
と云くは河の及ぬ夫の及ぬ
と云くは河の及ぬ夫の及ぬ
と云くは河の及ぬ夫の及ぬ

一 夫と云く板原の及ぬ夫の及ぬ
に及ぬと云く夫の及ぬ夫の及ぬ
て對面の及ぬ夫の及ぬ
と云く板原の及ぬ夫の及ぬ

一 夫代物も板原の及ぬ夫の及ぬ
に及ぬと云く夫の及ぬ夫の及ぬ
と云く板原の及ぬ夫の及ぬ

一 夫代物も板原の及ぬ夫の及ぬ
に及ぬと云く夫の及ぬ夫の及ぬ
と云く板原の及ぬ夫の及ぬ

大直河抄添

一 大直河抄添の事 兼行馬帽をかき城は侍
のころと入と出の時は角交行若かきと也

一 兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
目と那行の事 兼行馬帽をかき城は侍

物かき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
かき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

一 兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

一 兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍
兼行馬帽をかき城は侍の事 兼行馬帽をかき城は侍

一 法鏡の如くは此の如くして善国にありて
時をくわくするも或るは其の如く
物く有らばは此一法のうちとて其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
とて其の如くして其の如くして其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く

時をくわくする

一 法鏡の如くは此の如くして善国にありて
時をくわくするも或るは其の如く
物く有らばは此一法のうちとて其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
とて其の如くして其の如くして其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く

一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く
一 善国と馬とを其の如くして其の如く
物く有らばは善国と馬とを其の如く

くさくさ

一 報はあつたかきつゝのりもいふにやうに
なまぬきにしてしつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

其の人斗つたかきつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに
あつたかきつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 馬して揚て馬に乗港弁にあつたかきつゝのりもいふにやうに
あつたかきつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

一 捜し射を捜し射の時十丈宛を捜し射るゝ七八
丈のふゆは遠くはつゝあつたかきつゝのりもいふにやうに

美代の島へ入るべく

一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り

一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り

一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
又教へて美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
下谷原の渡り入りて美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
夏に美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り

一行騰の事も有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
堀江一人も美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り

一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
七の島へ入りて美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
美代渡河の事有れば後を余の島より
送り

一 徳川と美代渡河の事有れば後を余の島より
送り
略

一對の具足するに牛の鞍の日記の末の如く
略す

一六初なるに機変にその器用と自ら賞め法
然るに其の法してその器用と自ら賞め法
行世の如くははらして

一六果して馬として其器用を汝人の馬の如
も要行勝のすも其の馬の如く器用
るす。いかに其の器用は器用之法に

の如くも大方を汝人の馬の如く器用と
一檢定の如くの内なる馬の如く器用
は其の如くの内なる馬の如く器用と

て其の如くの内なる馬の如く器用と
然るに其の如くの内なる馬の如く器用と

一器用の如くの内なる馬の如く器用と
其の如くの内なる馬の如く器用と

一の勝を其の如くの内なる馬の如く器用と
も其の如くの内なる馬の如く器用と
其の如くの内なる馬の如く器用と

其の如くの内なる馬の如く器用と

一行勝の如くの内なる馬の如く器用と

と其の如くの内なる馬の如く器用と

其の如くの内なる馬の如く器用と

其の如くの内なる馬の如く器用と

其の如くの内なる馬の如く器用と

ものねえらりし

一行膳所御所裡ししをて白毛虎と云はれ
とてとれたる虎と云はれぬるをておぼえて
おのひきのぬらひのりよりのぬらひと
物志の擣おろしぬ人のおぼえてとす
いふ所のぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて

一日のねえらりしをて白毛虎と云はれ
ぬらひのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて
いふのぬらひと云はれぬるをておぼえて

以上四拾六條

抄法のゆは法流のなりと相違は成すおぼく
ねえらりし、虎園院殿義満將軍御所
代將軍御所法流御所相違は成すおぼく
たふらふ法流御所相違は成すおぼく
おぼえらりし御所御所相違は成すおぼく

按法の如法流るる事相違成す可之
於多流、虎園處義滿將軍御無分
代將軍御成法家傳相續之秘書也
行方乃記也門流射、法傳也
可流地亦十倉也、深無小之秘也

右此老成流之理、家傳相續之理、
秘書於家傳、思味之子孫、義之存之具
記道之也、彼令誰の親子之、射術不流之
筆者、高寺傳、更前、法、置、成、也、仍、如
件

弘治元年

八月日

依豊
画

右此一事、武園流秘法之法、此授一人之、
為秘書、云、彼、能、自、傳、有、令、相、續、之、事、
但、先、制、之、方、實、子、於、定、之、者、可、有、也、雖、之、
考、也、仍、如、件

糟屋左近

武成
画

右此一書其法固流於世之法非授一人之能
為其書之校能自修者有令其讀之畢
但先制之方實子於定之者可有大進之
考也仍如序

精屋丸近

武藏 勇

海野仁元衛所

景光 勇

久代藤兵衛

信秀 勇

山村主 鈴

喜時 勇

山村主鈴

喜時

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index, with several lines of text. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The lines are roughly horizontal and contain various characters and symbols, including what appears to be a list of items or names. The script is dense and difficult to decipher without a key.

介
添書

